

三井住友建設株式会社 2020年3月期決算説明会
主な質疑応答

1. 受注環境

- Q 新型コロナウイルスの影響を踏まえ、建築の受注環境に変化はあるか。
- A 国内顧客では計画先送りも見受けられるが、当社としては官庁工事への取組強化など市況の変化に対応し、受注確保を図る。
- Q 今後、物流マーケットが拡大すると思うが、建築用途別の競争環境を知りたい。
- A いずれの用途でも原価力を発揮し、発注者に適正価格を提示できることがポイント。

2. 業績

- Q 前期、工事利益率が低下した要因と当期業績への影響。
- A 工期逼迫による工事費増加等の影響、当期に繰り越すものではない。
- Q コロナ禍による当期業績への影響。
- A 国内より海外の影響が大きい。現状、国内の工事施工への影響はほとんど出ていないが、追加変更工事の受注時期遅れなどの影響を考慮した業績予想を策定。
- Q 前期、海外利益率が低下した理由、当期の見通し。
- A 前期は一部工事で施工中断したことなどが影響。当期はコロナ禍による中断工事の経費負担増加などにより低下。
- Q 上期はコロナ禍の影響が大きいと思うが、見通しはどうか。
- A 通期利益計画の3割程度。

3. 技術開発

- Q ロボタラス（鉄筋配置自動化システム）は、マンション部材製造にも活用可能か。また、原価低減にどの程度寄与するのか。
- A 高速道路の大規模更新事業（床版製造）に活用し、その後、マンション部材の製造技術における実用化を図る。原価低減は2割程度を目標。
- Q サスティンクリート（低炭素コンクリート）の開発、実用化に向けた取り組み。また、海外における引き合い状況。
- A 土木は、高速道路の床版取替工事（接合部）などに利用検討。海外でも反響があり、海外ゼネコンと共同でライセンス化により、普及を進めたい。
- Q 医薬品製造設備のモジュールユニット化技術（Sukkiri for Pharma）は、コロナ禍による医療基盤の再構築における需要で優位に働く技術か。
- A 製薬、ウイルス治療などの市場は増加が見込まれ、当技術は工期や原価低減に繋がるものである。現在、大手エンジニアリング会社と共に取り組んでいる。

4. 三井E&S鉄構エンジニアリング株式取得

- Q PC橋と鋼橋の一体発注は、どの程度か。
- A 最近、国内の大規模更新事業はPCと鋼橋の区分なく、一体発注が多い。海外でも大型橋梁工事の多くが複合橋。
- Q 当社の鋼橋施工実績、三井E&S鉄構エンジニアリング株式取得による今後の効果は。
- A 当社の鋼橋の施工実績は少なく、海外では鋼橋大手とJV組成により、大型橋梁工事を施工。今後、国内では床版取替工事において、同社の鋼橋技術が加わることで受注拡大につながる。

5. 株主還元について

- Q 今後、業績が上振れ、下振れした場合の株主還元に対する考え方は。
- A 配当18円は、業績が余程下振れなければ変えない。上振れた場合、総還元性向30%を目線に自己株式取得も含め、総合的に検討。

以上